



THE YMCA NEWS

北海道YMCA年間聖句 「だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる」(マルコによる福音書 11章24節)



2024年2月29日発行
1947年10月27日第3種郵便認可
公益財団法人北海道YMCA
〒064-0811
札幌市中央区南11条西11丁目
Tel 011-561-5217
Fax 011-563-0041
発行人/秋葉聡志
編集/湯井達海



「パレスチナ ガザ地区に生きる人々への連帯」～私たちに出来ること～ 札幌YMCA 佐藤 雅一

10月7日に発生したハマスによるイスラエルへの奇襲攻撃では、イスラエル市民1,500人以上が亡くなり、200人が人質とされ、今も解放されていない人々がいます。

一方ハマスの対抗措置として始まったイスラエル軍のパレスチナ・ガザ地区への攻撃は既に4ヶ月以上に及び、死者は30,000人を超えています。死者のほとんどは子ども・女性・高齢者等の弱者と言われています。また、医療従事者や国連職員にも多くの死亡者が出ており、ジェノサイド(集団殺戮)の疑いも指摘されています。

ガザ地区は、周囲をイスラエルが作った高い壁によって囲われており、国外に避難することが出来ず、水・電気・燃料・食糧・医薬品などの生活必需品は、全てイスラエルを経由して持ち込まなければならず、イスラエルによる攻撃開始以降は物資の搬入が途絶え、深刻な人道危機が続いています。

ハマスのイスラエルへの奇襲攻撃は決して許されることはありませんが、イスラエルによるガザ地区への攻撃は、既にハマスの対抗措置としての限度を大きく超え、戦闘行為や人権保護について定めた多くの国際法に違反していると指摘されています。

これまで世界のYMCAが連帯し、イスラエルによるガザ地区への攻撃を停止させるため、声明の発表・祈りを合わせる集会・支援活動とそのための募金活動を続けてきています。

北海道YMCAでは独自に、全国のNGOや市民団体と共に「イスラエルに対しガザ地区への攻撃を中止するよう要請する署名」や「パレスチナを支援している国際機関への支援金を停止しないよう求め

る署名」に参加してきました。

道内では、YMCA以外にもパレスチナ支援に関わる人々が、イスラエルのガザ地区への攻撃をとめるための集会やイベント、デモ行進が今も続けられています。

市民1人の力は小さいかもしれませんが、それぞれの場所で連帯し行動を起こしていくことで大きな力となっていきます。すぐにイスラエルの攻撃を止めることが出来なくとも、市民の声が大きくなればイスラエル支持の政府や企業に圧力をかけることになり、それがイスラエルの攻撃を躊躇させたり、作戦変更につながる可能性があり、その分パレスチナの人々の命を守れることにつながるのです。実際に市民の運動により、イスラエルの軍事企業と取引のあった日本企業が取引解除を決めていますし、パレスチナの人々を支援する世界的な運動は、イスラエルに影響を与えてきています。

かつて、ベトナム戦争を止めたのは、ベトナム人ジャーナリストが撮影した1枚の写真「ナパーム弾の少女」(1973年ピュリツァー賞作品)だと言われています。

戦争の残酷さを世界に伝えた1枚の写真に人々が共感し、反戦運動に加わっていったことが戦争終結につながっていききました。

今私たちは、様々な映像を通じガザ地区にいる人々の苦しみと悲しみを知ることが出来ます。彼らのために出来ることは沢山あります。それぞれの生活の場で何か1つ取り組んで、同じ思いの人々と連帯して声を上げることです。それが、イスラエルの攻撃をやめさせガザ地区の人々の命を守ることにつながります。いっしょに行動していきましょう。

2023 年度ピンクシャツデー

みんなが生きやすい社会って？ 真田 陽 さん

(一般社団法人にじいろほっかいどう 事務局長)

「みんなが生きやすい社会って？」と聞かれたら、みなさんはどういう社会をイメージするでしょうか。

「みんなが生きやすい社会」を考えるときに、様々な立場にある人々から今の社会を見つめ直すことができます。その中の一つに、LGBTQ などの多様な性という観点があります。近年、LGBTQ などの性的マイノリティとされる人々の苦悩や社会的課題がピックアップされるようになり、多くの人々の理解と行動で少しずつ社会に変化をもたらしてきています。とは言っても、まだまだ課題は山積みです。今後さらに社会の変化を求めていくときに、何が必要なか。制度、教育、コミュニティ…必要なことだらけの中で、私は、「みんなが生きやすい社会」をみんなが“自分事”として考えていくこと、これが大きな力になると信じています。

LGBTQ などのマイノリティではない、今の社会の中でマジョリティとされる人たちも、一人ひとりが固有のセクシュアリティをもつ、多様な性の中の一人です。セクシュアリティに限った話ではありません。誰もが、マイノリティの側面もマジョリティの側面も持ち合わせる、多様な人々の中の一人です。

多様な人々の、多様な声に耳を傾け、一人でも多くの人が、今の社会の課題を“自分事”として考えることができれば、それは確実に「みんなが生きやすい社会」への一歩となっているはず。「みんなが生きやすい社会って？」とイメージすることから、はじめてみませんか。

すべての子どもたちに伝えたい「あなたは大切な人だよ」と。

木村 里美 さん (J-CAPTA)

いじめは子どもの心と身体を深く傷つける人権侵害です。調査によるとクラスの 6%がいじめの側、9%がいじめられる側、85%が傍観者で、いじめを解決する鍵は傍観者が握っています。一人一人が何らかの行動を起こせば、その力関係、ダイナミズムが変わっていきます。

何もしないことは結果的に暴力に加担していること。思い思いのピンクを身につけた青年たちのアクションとムーブメントに励まされます。

もしいじめられている子に出会ったら、「あなたは悪くない。信じるよ。」と伝え、あきらめないでできることを一緒に考えたい。「やめて」ということも、「相談する」ことも大事だけど、時には自分を守るために「逃げる」こともいい。子どもが選んだ選択肢を全力で応援したいと思うのです。きっと大丈夫。

もしいじめている子に出会ったら、大人の私はちゃんと話を聴きたいと思うのです。その心の内を。子ども時代の加害は被害のもうひとつのカタチ。もしかしたら誰にも言えないこと、悔しいこと、惨めな思いがあるのかもしれない。どんな理由があっても「いじめられていい人はいない」。勝手な「らしさ」の枠をつくって、はみ出していることを差別したり、からかったり、攻撃しないよう

大人も変わらなければなりません。子どもをいじめの被害者にも加害者にも傍観者にもしないために、すべての子どもたちに伝えたい。「あなたは大切な人だよ」と。



おめでとうございます！



実用英語技能検定試験 準1級 合格

札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校 2年 本田 佳一郎 くん (写真左)

札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校 2年 齋藤 千海 さん (写真右)

専門学校では年 3 回実施される実用英語検定試験の準 2 級～準 1 級までの取得を目指して、授業を進めています。6 月の試験では、全体の受験者数は 2 級 3 名、準 2 級 1 名、準 1 級 2 名でした。合格者は準 2 級が 1 名と準 1 級が 2 名でした。

準 2 級と 2 級のクラスは、基本的には過去問題を中心に学生が自分で勉強を進めていきながら、わからないところを講師に質問するという授業スタイルです。また、カウンセリングと模擬試験を前期に 2 回ずつ実施し、本試験に向けて学習方法の指導や実際の試験と同じ時間配分で模擬試験を実施しました。

準 1 級のクラスは、限られた時間の中、単なる暗記に終始するのではなく、将来にわたって役に立つ真の英語力を養成することを意識しています。①接頭語・語根から効果的に単語を覚え、未知の単語でも類推できる語い力を身につける。②英語長文の典型的な段落展開を学び、作者の主張を的確に捉える。③クラス内で時間制限を設けて英作文演習を行い、実践感覚を養う、という内容で授業を進めています。日々コツコツと努力することが、合格への鍵となります。

(札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校 英検準 1 級対策担当講師 山口 篤 先生)

第 18 回東日本地区 YMCA スタッフ研修会参加報告

2024 年 1 月 24 日（水）～25 日（木）

於：東京都墨田区八広荒川河川敷・国立オリンピック記念青少年総合センター



関東大震災 100 年と YMCA ～一人称の対話からはじめるヘイトの克服～

北見 YMCA スタッフ 山田恵美さん

東日本地区の YMCA から 25 名の参加者が京成押上線八広駅に集まり、近くの荒川河川敷そばにある「関東大震災時 朝鮮人殉難者追悼之碑」に移動し、開会のお祈りから研修が始まりました。その後、追悼碑建立に尽力された、NPO 法人「ほうせんか」理事の慎民子(シン ミンジャ)さんの案内で、実際に大量虐殺が起きた河川敷に移動し、その当時の情景が思い浮かぶような、証言に基づいた話を聞きました。逃げるために川に入っても川幅が広くて逃げ切ることができず、追い詰められて機関銃で撃たれたり日本刀で切られたり、鉄の棒で突き刺されたりなど酷い殺され方をし、目の前の河川敷には多くの人が遺体となって埋められていたといひます。今はこの場所で、遺骨や墓もない多くの犠牲者を悼むとともに、差別やヘイトをなくすことを願い、追悼式が毎年行われています。

当時、日本は大韓帝国(朝鮮)を植民地にし、武力による弾圧や生活の困窮により、仕事や勉学の機会を求め日本に来る人が増えていった矢先の関東大震災でした。日本から独立しようという運動への警戒もあり、「朝鮮人が放火した」「朝鮮人が攻めて来る」などの流言蜚語(確かな根拠のない噂)が飛び交い広がり、日本の軍隊・警察・民衆までもが朝鮮人を殺害したということを私は今回初めて知る機会となりました。

研修二日目は、宿舎の青少年総合センターで東京 YMCA の大震災時の災害支援について学び、さらにキリスト教理解を深めました。その中で衝撃的だったのは、キリスト教理解を担当した金迅野牧師の語った現代の在日朝鮮人の少年に対する集団差別のエピソードで、その子は最終的に自殺を選び…。担任がその子が亡くなったことを伝えるとクラスの中から「万歳」と次々に声が上がったという実話でした。偏見や差別にアクセルが効かなくなってくるとヘイトクライムになることを知りました。また、ユダヤ人虐殺のために毒ガスを発明したナチスドイツの博士は、戦後の裁判で「ただ私の仕事をしていただけのこと、何がいけなかったのか」と発言したとのこと。自分の知能がどんなことに使われているのか、善悪の境界線をどこに引くのか、【私は一体何をしているのか】という「問い」を無くすと「知」は悪にもなることを学びました。

また、講義中に紹介された動画で、入管法違反の外国人を複数の入管職員が拘束し、拷問のように手足の自由を奪って苦痛を与え、「自分の国には帰りたくない・殺される」と訴えているのも聞こうとせず、強制的に国に帰ることに同意させようとする動画や、街頭で在日朝鮮人に対して集団でしつこく罵倒する動画を見て、このような日本人がいることに衝撃とショックを覚えました。普通の市民が虐殺に走ったように、その時「自分は殺される側」になるのか「殺す側」になるのか、どちらもあり得ることで、その時代の社会や風潮に左右される可能性があり、その分岐点に立つ時、【自分は一体何をしているのか】という問いを無くさないことが重要だと思いました。

震災直後にいち早く救済活動を開始した東京 YMCA の働きも知り、その活動の根底にあったものが、キリストに倣う愛と奉仕の精神であり、その働きも周囲に広がり、支援の輪が広がったことは、ブランドスローガンの「みつかる・つながる・よくなっていく」に繋がっている YMCA 運動であることを改めて学ぶことが出来ました。

札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校 2024 年 3 月に閉校

57 年の歴史に幕を閉じる



札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校の輝きいつまでも

新保 秀実 さん (元副校長)

YMCA が専門学校を運営する事の意味を問われたとき私は、即座に正に YMCA そのものだからですと答えます。一般的には、実践的職業教育の場であると答える人が多いと思います。YMCA は人間教育がそこに加わります。18 歳から 20 歳前半の学生たちと、どんな成人・社会人として生きていくのかを共に考え、彼らに寄添い 2 年間を過ごすのです。

学生たちは希望を持ち入学します。夏が過ぎ秋の声を聴くと、欠席が目立つ学生が出てきます。そんな時、教務スタッフは、いつも彼らと共にいます。電話で、時には家まで行って声を掛けます。私も良く家まで行ったものです。もちろんそれで解決する事は少なかったのですが……。我々は諦めず語りかけ続けました。

学校には、幾つかの学科とコースが有りました。英語・ビジネス・スポーツ等です。その学科の中に軽度の発達障害者の為の、高等専門教育機関として北海道初のコースを設置しました。

在校生は、様々な障害を少しでも克服し将来の活躍を信じて勉強に、学校行事に奮闘していました。先生「計算が出来ない」「そうじゃ電卓のプロになろう」「漢字が苦手」「じゃワードを使える様に」「文書一行飛ばして読む」「じゃ定規をあてて」こんな感じでした。学生は本当に努力していました。

札幌 YMCA 専門学校の長い歴史に幕を閉じるとき、本校が輩出した多くの卒業生が、社会で活躍していることを誇りに思い、彼らが本校で身に着けたスキルと、人と共に寄添い生きることの精神はまさに YMCA の光であり、輝きで有り続けると信じています。

札幌 2023 年度スキースクール実施

札幌 YMCA2023 年度のスキースクールは 12 月 26 日(火)から始まり
ました！今年度は例年に比べ積雪不足で、フッズスキー場のオープン
が間に合わず、年末の日帰りコースは中止となり別日程で振り替える
こととなりました。年末のルスツ宿泊コースは問題なく実施するこ
とができました。また、年明けの日帰りコースもスキー場はオープンし
たのですが、積雪不足により一部のゲレンデしか滑れず、急遽別のス
キー場との 2 展開での実施となりました。その後は積雪もあり無事に
すべてのゲレンデがオープンしスクールを実施することができまし
た。参加者の皆様には急なコース変更のお願いにもご理解ご協力いた
だき感謝でした。

スクールでは昨年よりも多くのユースボランティアリーダーが関わり、
子どもたちもバスの車内やレッスン、昼食時間など楽しく過ごす
ことができました。

春休みには札幌国際日帰りコースとルスツ宿泊コースを企画してい
ます。みなさんのご参加をお待ちしています！



北見 北見 YMCA 雪中運動会

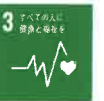
今年の北見 YMCA 雪中運動会は 2 月 10 日(土)にノーザンアーク
リゾートスキー場にて行いました。

前日までの予報では曇りでしたが、当日は暖かい日差しの中で小
規模保育園と保育園 joy の 33 ファミリーが参加しました。

はじめに、joy 園児全員でリフトに乗りスキー実習の成果をそれ
ぞれのクラス毎に発表し、保護者から大きな拍手を頂き、照れくさ
さの中でも得意げな顔を見せていたのが印象的でした。

場所をそりコースに移しての雪中運動会では親子競技が多いのが
特徴で、我が子をそりに乗せて必死にスロープを駆け上がるお父さん、
お母さんは大変でしたが元気っ子たちの歓声と笑顔に疲れも癒
されたことだと思います。

運動会終了後には YMCA 特製豚汁を食べ、どのファミリーも笑顔
で楽しいひと時を過ごすことができました。



とち帯広 ピンクシャツデー運動

今年の「ピンクシャツデー」は、十勝管内の高校生団体「CAN-PASS
(キャンパス)」と協働して取り組んでいます。ピンクシャツデー運
動に協力してくれる人を「ピンクシャツデーサポーター」として募集
し、2 月 10 日(土)には 41 名のサポーターが集まってピンクのミサ
ンガを作ったり、ピンクの折り紙で飾りを作ったりして楽しみながら
ピンクシャツデーを広める準備をしました。イベントの実施やミサン
ガ作りは CAN-PASS の高校生の発案で、ユースの柔軟なアイデアのお
かげで新しい取り組みにチャレンジすることができました。

CAN-PASS 次期代表の長瀬幸奈さん(帯広柏葉高校 1 年)は、「自
分『やってみたい!』と思ったことが、たくさんの方のご協力をいた
だき、こんなにも大きなイベントに発展したことがとても嬉しいで
す」と話していました。

2 月 28 日(水)のピンクシャツデーに向けて、サポーターとともに
「いじめのない世界をめざそう」というメッセージを伝えていきます。



ワイズ便り

「ワイズワーク」 北見ワイズメンズクラブ

ワイズメンズクラブのボランティア活動の一つにワイズワークがあります。津別町にあるYMCAチミケップキャンプ場での整備のお手伝いからスタートしました。当初は北見クラブや札幌クラブなど、各クラブ単位での参加でしたが、何年か前から、ワイズ北海道部のイベントとして3クラブ合同での行事として定着しました。札幌や帯広など遠くからチミケップまではるばる車で参加しています。

ワークの内容は、キャビンの網戸の張り替えや防腐剤の塗布、壁のペンキ塗り、落ち葉集め、キャンプ場内の通路の砂撒き整備等々、毎年違った作業をYMCAからの指示で行っています。高齢化もありわずかな作業量ではありますが、皆楽しみながら汗を流しています。

最大の楽しみは実は作業後のみんなでの語りいでしょう。お茶を飲みながら、個人の近況報告から昔話、将来の夢など時間を忘れて笑いの絶えないひと時となります。今後も体力の続く限り継続されることを願っています。



INFORMATION

2024年度北海道YMCA創立記念日集会

北海道YMCAは、W・クラーク博士から聖書による教育を受けた札幌農学校の1期生と、1期生の強い影響を受けた2期生による札幌バンド（キリスト教信仰によって強く結びつけられた青年の集団）の青年たちを礎として1897年に結成された札幌基督教青年会によってYMCA運動が始まり、今年127年目を迎えました。

4月1日を創立記念日と定め、創立の思いに立ち返ると共に、ミッションステートメントに示された働きを確認し、YMCAの願いを多くの人に伝え、共に学び合う時として創立記念礼拝・講演会を開催します。

日 時 2024年4月7日(日) 13:30~16:00
会 場 札幌YMCA(札幌市中央区南11条西11丁目2-5) ※zoomによるオンライン参加も可能です。
プログラム 創立記念日礼拝 13:30~ 記念講演会 14:30~

テーマ 「安心できる暮らしと地域を子どもに」 子ども達のためのポジティブネット

講 師 山内 太郎さん

札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科准教授、労働と福祉を考える会代表、反貧困ネット北海道共同代表

ポジティブネットとは、「互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。」を意味するYMCAが作った言葉です。

参加希望の方は、QRコードから申込みサイトを入力するか、メールでお申し込み下さい。✉:ll:info@hokkaidoymca.org



寄付及び会費の納入・募金へのご協力に感謝申し上げます。

○維持会費：赤松明彦、池田正勝、石澤伸弘、大竹由子、大西雅之、久保田和寿、齋藤隆広、白石大雅、白木教嗣、杉本拓、竹口祐司、中村義春、保坂悦子、矢竹克年、山口篤、山下真、山田敏明、山本雅之、渡辺喜代美

○賛助後援会費 個人：関井豊

○寄附：野村嘉伸 北海道YMCA事業支援のため、株式会社エス・ワールド代表取締役 下村卓也 北海道YMCA事業支援のため

○会館建設募金：石丸修太郎

○国際協力募金：秋葉聡志、石澤伸弘、石丸修太郎、長南幸子、小谷和雄、北見重建沼田大介、齋藤義信、佐藤雅一、東海林聖、新札幌聖書教会、竹口祐司、千葉頭、堀功、本間フミ、宮崎善昭、茗荷耳鼻咽喉科病院、山川康、山口篤、山中恵理子、義村小夜子

○ウクライナ支援募金：日本バプテスト連盟札幌バプテスト教会

○能登半島地震支援募金：秋葉聡志、北見重建沼田大介、佐藤雅一、東海林聖、千葉頭、堀功、小林聖虎・龍聖、中村郁仁、西村悠、中嶋悠人・一翔、杉本里帆、市之川華、中島涼子、有田禄、芦澤環、鎌田美香、安孫子ゆかり、小野ひとみ、宮本陽斗・朝陽、田中雅之・歩、山内風翔、川口豊、足立葉子、森咲太郎、廣瀬環、杉崎珠美、菊池真叶、白木佳世